

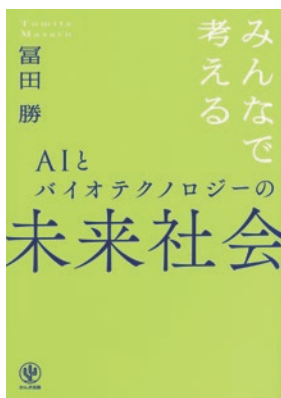
慶應義塾に関連した出版物や教職員の最新著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

進展するテクノロジーの意味と
幸せや生き方を考える

『みんなで考える』

AIとバイオテクノロジーの未来社会

富田勝（環境情報学部教授）著
かんき出版 / 1540円（2022年5月）



著者は米国の大学で最先端のAI研究に従事し、「人間の知性をコンピュータ上で再現すること」の困難さを痛感。生命の精巧なメカニズムを解明すべく36歳で医学研究科博士課程に入学し、バイオサイエンス研究者として再出発した。本書ではAIやゲノム技術、ヒトクロームと生命倫理への考察に加え、生きる目的といった社会的、哲学的問いかけを通して、自分の将来のビジョンをどのように描いていくかのヒントを提示する。「都内の私立大学に通う大学2年生」が富田教授に相談するという対話形式によって明快に解き明かし、多くの読者が「自分ごと」として理解できるよう編集されている。

教職員執筆の最新刊

●吉川肇子（商学部教授）著

『リスクを考える―「専門家まかせ」からの脱却』

ちくま新書 / 946円（2022年6月）

●今井むつみ（環境情報学部教授）ほか著

『算数文章題が解けない子どもたち―ことば・思考の力と学力不振』

岩波書店 / 2420円（2022年6月）

●石川透（文学部教授）著

『奈良絵本・絵巻―中世末から近世前期の文華』

平凡社選書 / 3960円（2022年7月）

●山本龍彦（法務研究科教授）ほか著

『デジタル空間とどう向き合うか―情報的健康の実現をめざして』

日経BP 日本経済新聞出版 / 990円（2022年7月）

●安西祐一郎（学事顧問・名誉教授）著

『教育の未来―変革の世紀を生き抜くために』

中公新書ラクレ / 1056円（2022年8月）

●平野裕之（法務研究科教授）著

『高齢者向け民間住宅の論点と解釈―有料老人ホーム・サ高住入居契約の法的分析』慶應義塾大学出版会 / 4180円（2022年8月）

慶應義塾のこの一冊

『小幡篤次郎著作集 第一巻』

小幡篤次郎著

小幡篤次郎著作集編集委員会編

慶應義塾大学出版会 / 4620円（2022年3月）



豊前中津藩士の家に生まれた小幡篤次郎（1842〜1905）は、福澤諭吉にスカウトされ、その右腕として義塾の礎を築き、発展を支えた。小幡は「学問のすゝめ」初編に福澤と並んで著者として名を連ね、翻訳も手がけた。交詢社の設立や時事新報でも重要な役割を果たしたと考えられている。生誕180年となる2022年、著作集（全5巻予定）の刊行がスタート。西澤直子福澤研究センター教授は、「その時期に日本に訪れていた変化がどんなものだったか知る」貴重な歴史資料としての価値を語っている。